

近所にコンビニがあると動脈硬化のリスク増大

これまでの研究で、自宅周辺の環境が動脈硬化症の発症に関係することが示されているが、「不健康な」食べ物を提供する店(ファストフード店やコンビニエンスストア)が近所にあることが冠動脈石灰化のリスクと関連するかについては不明である。本研究では、若年層の成人を対象に、冠動脈リスクについて検討した大規模観察研究(CARDIA 研究)のデータを用い、動脈硬化の指標である冠動脈の石灰化の変化と、自宅から 3km 以内のコンビニエンスストアやファストフード店の占める割合の変化との関係について検討した。

対象は、CARDIA 研究に参加し、追跡期間中の 15 年目、20 年目、25 年目に冠動脈の石灰化測定を実施している者 2,706 例とした。試験開始時(15 年目)に動脈硬化があった者の割合は 9.7%であったが、10 年間で 21.1%となった。コンビニエンスストアの割合が 1 標準偏差増すごとに冠動脈の石灰化リスクが 34%増大した。一方、ファストフード店および食料品店の割合と冠動脈の石灰化リスクとの間には有意な関連はみられなかった。

したがって、自宅の近所にコンビニエンスストアがあることは、冠動脈の石灰化リスクの増大と関連することが示唆された。

出典:Journal of American Heart Association. 2019 Feb 19; 8(4): e010586.